

【第二章】 パネルディスカッション

「100歳までのライフプラン

（将来の経済リスクに今から備える）

パネリスト…**飯村 久美** F P事務所アイプランニング代表

伊藤 宏一 千葉商科大学 人間社会学部教授

椎名 達也 キリン株式会社 人事総務部人事担当

星 治 三菱UFJ信託銀行株式会社
フロンティア戦略企画部エグゼクティブアドバイザー

山本 英生 明治安田生命保険相互会社
営業企画部 上席FPコンサルタント

コーディネーター…**森 義博** 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
企画調査部長

（本章は2017年11月15日に開催されたシンポジウムでのパネルディスカッションの内容を編集したものです。）

森(コーディネーター) ここからのパネルディスカッションのテーマは、「100歳までのライフプラン〜将来の経済リスクに今から備える〜」です。日々ライフプランの相談にあたっていらっしゃるファイナンシャル・プランナーの飯村さん。商品を提供する金融機関の中でも特に長寿社会との関係が深い信託銀行の星さん、生命保険の山本さん。企業の人事部門で制度作りや社員のサポートをしていらっしゃる椎名さん。大変バラエティーに富んだ方々にお越しいただきましたので、まずはそれぞれのお立場からお考えをご披露いただきたいと思います。

飯村 ファイナンシャル・プランナーの飯村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私はFP相談の現場から、100歳までのライフプランについてお話をしていきたいと思えます。まずは、生の声をご紹介します。

飯村 久美 (いいむら くみ)

【現職】FP 事務所アイプランニング代表
ファイナンシャル・プランナー

学習院大学を卒業後、安田火災海上保険株式会社(現損害保険ジャパン日本興亜株式会社)に入社。FP 資格を取得後、2006年FP 事務所アイプランニングを開業。

現役世代のライフプランニングと家計管理が専門。

著書には『子どもを持ったら知っておきたいお金の話』(中経出版)、『ズボラでもお金がみるみる貯まる37の方法』(アスコム)など。



定年後の後悔

ある雑誌が、定年退職をした方に「リタイヤする前にやっておけばよかったこと、何か後悔したことはありますか」というアンケート調査をして、出てきた回答をご紹介します。(図10)

この会場には現役の方もいらっしゃれば、人生の大先輩もいらっしゃいますが、皆さんは何か後悔されたことはございますか。

「もっと貯めておけばよかった」「投資の勉強をしておけばよかった」……これは退職金という大きなお金を手にしたときに、知識や経験がなかったためどのように運

定年後の後悔

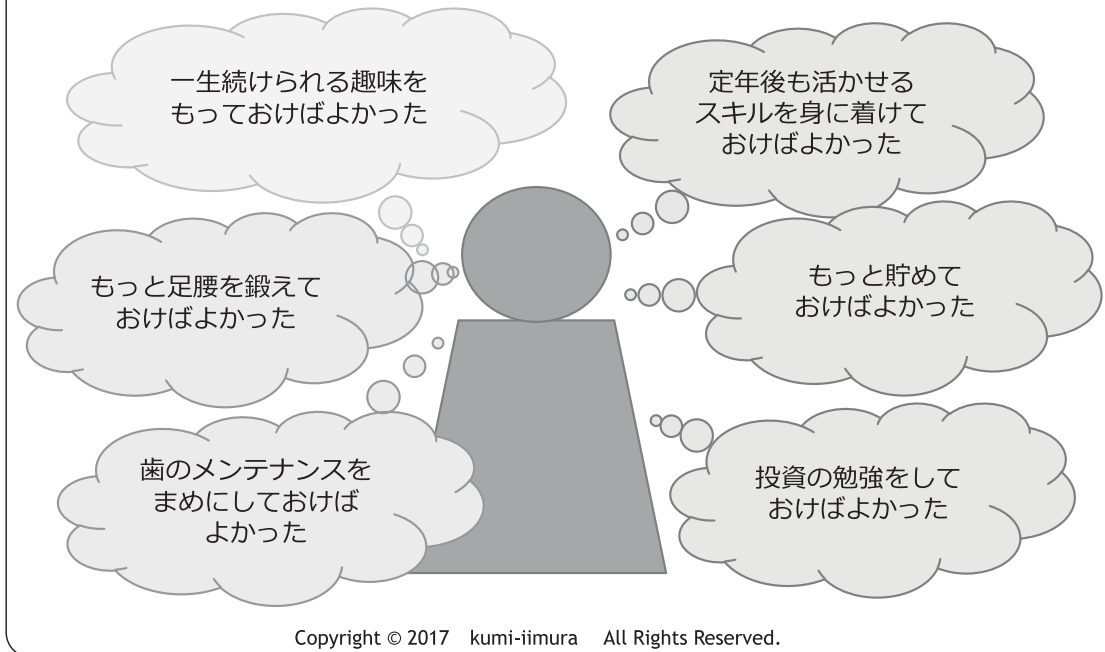


図10

用していいかわからなかったというお話かもしれませんが、
ありません。そして「定年後も活かせるスキルを
身につけておけばよかった」……これはスキル
や技術などがあれば退職後も働けたのに、とい
うことでしょうか。ほかにもございますが、一
番多かったのが「一生続けられる趣味をもっと
おけばよかった」でした。定年後、何もするこ
とがなかったということの気づきの表れでしょ
うか。

「引退後、『キョウヨウ』と『キョウイク』が
必要」という言葉を耳にしたことがあります。
エデュケーションの「教養」「教育」ではなく、

「今日用事（キョウヨウ）があるかどうか」「今日行く（キョウイク）ところがあるかどうか」ということだそうです。長いセカンドライフをどのように過ごしていくのかを、今のうちから現役の方は考えておく必要があると思います。

私ごとですが、ご縁がありまして昨年卓球を始めました。地元の体育館では70代、80代のお元気なおじいちゃん、おばあちゃんがラケットをブンブン振り回して、お相手をお願いすると私はこてんぱんにやつつけられます。いきいきしていらっしやるシニアの方を見ると、私もそのように年を重ねていきたいなと思います。

アンケート結果では他にも「もっと地域とのつながりをもっておけばよかった」「友人を作っておけばよかった」というのがありました。それから、ちよつとドキツとしたのが「パートナーを慎重に選んでおけばよかった」ということです。先ほどの伊藤先生のお話にも、名前を呼んでくれるのは病院だけなどという話もありましたが、無形資産が大事だというお話だと思います。皆さん、大丈夫でしょうか。

幸せな人生の3要素



Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved.

図11

ライフデザイン、ライフプラン

先ほどのアンケートにもありましたが、人がいきいきと幸せな人生を送るためには、「心と体とお金のバランス」が重要だと思います。これらを踏まえて、ご自身の人生をどのようにデザインしていくかという「ライフデザイン」と、ご自身が希望する人生を実現するために「ライフプラン」というものがあります。

私はセミナーやコンサルティングで「ライフイベント夢シート」というものをお配りしています。図12はこの先10年間の未来年表になります。

ライフイベント夢シート（記入例）

西暦	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
自分	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
夫	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
長女	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
母	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
ライフイベント・家族の夢		温泉旅行	車の購入	東京オリンピック		長女中学入学	結婚20周年	母喜寿の祝い	長女高校入学	高校学費
イベントの費用		5	180	10		10	5	10	100	80



Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved

図12

います。皆さまはこれから先の10年、どんなことをしたいですか。どんなご予定がありますか。また、手に入れたいもの、欲しいものはありますか。それらにかかる費用などを見積もり、マネープランを立てていくことがこれからの時代、非常に大事になってまいります。

また、下の部分には小さきまざまな丸がございます。これはファミリー世帯の事例ですが、今現在のその方々のやりたいことや願いごと、また、小さい頃からの夢などを書いてもらっています。働いたり家庭を持っていたりすると忙しく、自分のやりたいことや先のことをじっくり

りと考える時間がないのです。しかし、自分と向き合ってこれからのことを考えていくと、これからしたいことやどこにお金をかけていきたいかが見えてきます。自分にとって生きたお金の使い方を考えるようになります。また、シートに親の年齢を入れてみますと、親も年を重ねるわけで元気なうちに親孝行したいという思いも出てきました。もしかしたら、こういったことの積み重ねが人生100年時代を有意義なものにするために大事なのではないかと思えます。

ライフプランとマネープラン

図13は、ライフプランの一例です。人は現役時代に働いて収入を得ますが、その間いろいろとお金がかかってきます。中央の影をつけた部分がライフプランにおいて非常にお金がかかる時期なのです。ライフプランを立てますと、いつ頃がお金のかかる時期で、いつ頃がお金を貯められそうな時期かがわかります。一番下の貯蓄時期①と貯蓄時期②の貯め

ライフプランとマネープラン

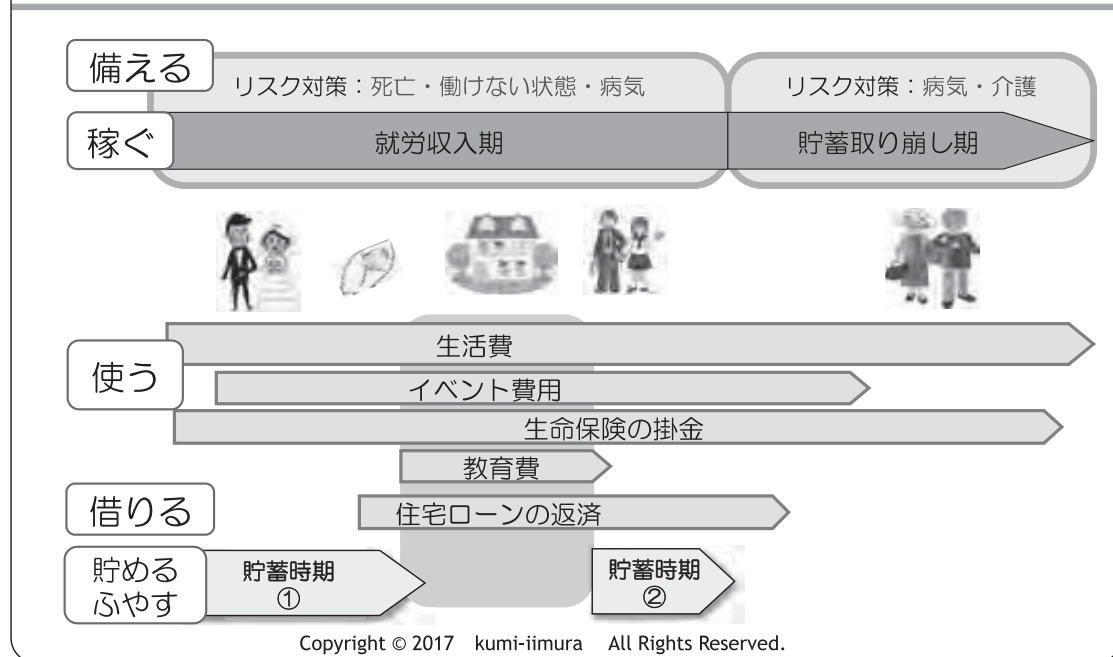


図13

どきを逃さず、将来のために資産形成していくことが大事になってまいります。

特に住宅ローンなどは、35歳でマイホームを買って35年ローンを組みますと、完済の時期が70歳になります。リタイヤした後まで、ローンの返済が続くというのは年金収入の家計を圧迫します。しかし、そのことを考えないでローンを組んでしまう人も少なくありません。これからの時代、ライフプランを考えて、マネープランをしっかりと立てていくことが本当に重要になってまいります。

人生100年時代の経済的リスク

- ・健康を害して働けなくなった場合
 - ・リストラや失業
 - ・親の介護による離職
 - ・税金や社会保険料のアップ
 - ・変動金利で借りている住宅ローンの金利上昇
 - ・インフレ時の資産の目減り
 - ・確定拠出年金等の運用結果
 - ・退職後、年金支給開始までの無収入期間
 - ・高齢期の資産管理
 - ・晩婚化・晩産化による老後資金の準備期間の不足
 - ・世帯年収が減る中での教育費負担
 - ・子どものニート、ひきこもり、非正規雇用
 - ・パートナーとの死別、離別による生活困窮
 - ・災害や世界金融危機
- 等

Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved.

図14

人生100年時代の経済的リスク

先ほどのライフプランの全体像からは見えてこなかった、人生100年時代だからこそその経済的リスクをピックアップしました。(図14)

どの時代にもさまざまな要因に対して経済的リスクはあります。例えば、変動金利で借りている住宅ローンの場合、もし金利が途中で上昇したら返済額は上がります。この先、金利が上がることを想定して、繰り上げ返済用にお金を貯めておくという対策が必要になってまいります。

次は、インフレ時の資産が目減りです。日本は長い間デフレの時代が続きまされたので、銀行預金さえしておけばよかったです。今後インフレになった場合、預貯金に置いておくとお金が目減りしてしまう可能性があるということを考えておかなければなりません。続いて、確定拠出年金です。企業が確定給付年金から確定拠出年金に移行していく中で、全く投資を経験したことがない方も資産運用についてしっかりと学んでいかななくてはならなくなりました。

そして、ライフスタイルの多様化による晩婚化、晩産化です。これは、ご自身がリタイヤした後に、お子さんの大学資金の準備が必要になるケースもあるということです。

さらに、子どものニート、引きこもり、非正規雇用です。ダイヤ財団の調査によると、「完全引退後の生活における不安」という問いの回答の中に「子どもの経済的困窮」というのがありました。自分の経済的困窮だけではなく、子どもの経済的困窮も少し不安です。クレジットカードやリボルビング払いが多重債務の入り口にもなるおそれがありますので、

人生100年時代を生き抜くマネーの3つの力



Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved.

図15

お子さんの金銭教育も必要な世の中だと思いません。

マネーの3つの力

人生100年時代を生き抜く上でのマネーにおける3つの力を、事例とともにご紹介したいと思います。(図15)

まず一番土台となるのが「稼ぐ力」です。これからは健康で長く働くことがテーマになってくると思います。老後マネーの不安も、稼ぐ力があれば少しは解消されるのではないかと思います。

私の友人に介護施設で働いている人がいるのですが、話によりますと、ランドリーという洗濯物等を管理する仕事のチームリーダーが何と90歳だそうです。リーダーシップを發揮され、手先の器用さを生かしていきいきと働いていることをお聞きして、素晴らしいなと思いました。

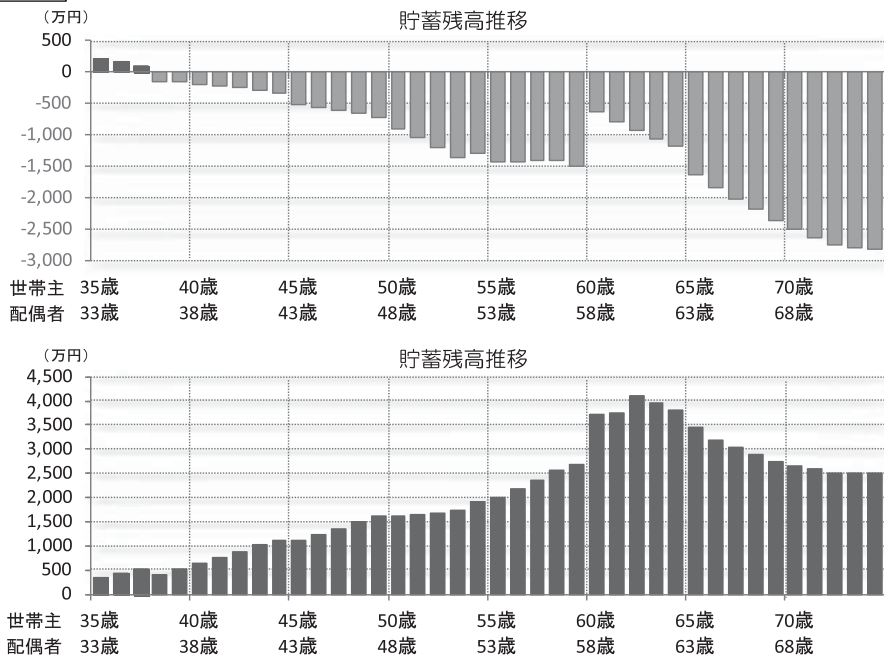
次は、「貯める力」です。家計の支出をコントロールする力です。

その次は、「ふやす力」です。預貯金の金利が0・001%では資産はふえていきませないので、投資の知識などをつけていくことが大事になってまいります。国も昨今、税制の優遇で個人の資産形成づくりを応援しています。

家計の見直し事例

次は事例を見ていききたいと思います。まず、「稼ぐ力」の事例です。図16は実際にライフプラン相談に来られた方のシミュレーションです。夫の年収が500万円の30代のご夫

事例1 世帯収入をあげた例



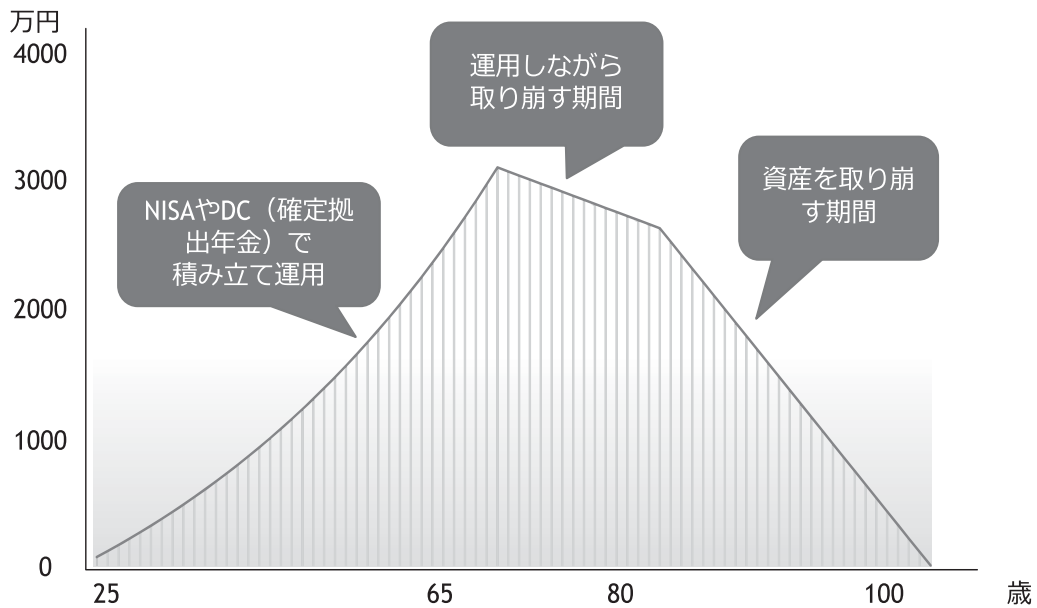
Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved.

図16

婦です。奥さまは専業主婦、4歳のお子さんがお1人いらっしゃいます。年間の生活費は300万円です。平均的な家庭です。お子さんは高校まで公立、大学は私立に行きます。3年後に住宅を購入し、2500万円の住宅ローンを組みます。そうするとこのままの収入でいけば、上の段のように3年後に住宅を購入してからは、金融資産は赤字に転落してしまいます。そこで改善策として、奥さまが働くこと下のグラフになります。40歳まで180万円、60歳まで240万円です。働くこと、ぐっと安定した家計になります。また、奥さまが社会保険に加入することで、厚

事例3

マネープランの例



Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved.

図18

それを30年間続けると、何と先ほどの老後の取り崩し分とちょうど同じ1440万円になるのです。これは食費や小遣いを削っているのではなく、固定費の無駄を省きました。こういった小さな見直しを早くやることで、随分対策が立てられるということをお伝えしたいと思い、ご説明しました。

マネープランの事例

そして、「ふやす力」です。25歳から65歳までの現役時代に毎月3万円（確定拠出年金は2万円、積立・投信を1万円）を3%くら

セカンドライフのお金の可視化

〈ある会社員世帯の事例〉

単位：万円

	60才	61才	62才	63才	64才	65才	66才	67才	68才	69才	70才	...	
公的年金						220	→						
企業年金	60	→											
その他収入	60	→											
就労	150	→											
生活費	300	→										280	→
その他支出	50			100				100					
年間収支	▲80	▲30	▲30	▲130	▲30	40	40	▲60	40	40	▲60	▲60	

Copyright © 2017 kumi-iimura All Rights Reserved.

図19

いで運用すると、3000万円ほどになります。これは節税を含んだ金額です。

65歳からさらに運用を続け、70、80歳くらいで運用をやめ、そこから生活費を取り崩します。このようなマネープランを描く場合、自分たちはリタイア前にお金をいくら用意しておけばいいのか、それを逆算で考えていくことが必要です。

セカンドライフのお金の可視化

図19はセカンドライフのお金の可視化の資料です。セカンドライフでいつまで仕事をし、

どのくらいの収入を得るのか、そして、年金はいつからいくらもらえそうなのか、生活費や特別にかかる支出はいくらなのか、これらのお金を40代後半から50歳頃に可視化し、具体的な数字でみていただければと思います。

将来の不安というのは、目に見えないから不安になるのです。少しでも見通しが立つと、何をしたらいいかという対策につながりますので、こういう可視化が有効になります。

人生100年時代のライフプランは、老後が長くなり、やりたいことや学び直しがいつでもできるというチャンスでもあります。今までの生き方にとらわれず、自分のオリジナルのライフデザインを描いて、心豊かに過ごしていきたいと私も思っております。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

星 三菱UFJ信託銀行の星と申します。本日はよろしくお願いいたします。

信託銀行といえますとあまり馴染みのない方も多いかもしれませんが、いろいろな業務

星 治 (ほし おさむ)

【現職】三菱UFJ信託銀行株式会社
フロンティア戦略企画部
エグゼクティブアドバイザー

1985年入社。資本市場、経営企画、受託財産企画等の業務に従事し、執行役員フロンティア戦略企画部長を経て現職。現在、信託銀行の機能を活かした新商品の研究、社会課題解決提言に取り組む。これまで、日本型預託証券(JDR)、貴金属上場信託「金の果実」シリーズ、解約制限付信託「みらいのまもり」等の開発に従事。日本証券アナリスト協会検定会員。

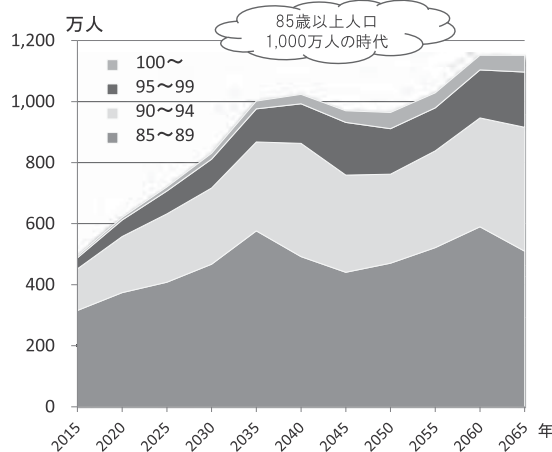


を行っています。お客さまには一般の企業もいらっ
しゃいますが、個人の方も多くいらっしゃいます。ど
のようなお客さまであっても、財産をしっかりと預か
りすること、そして、ご希望に合わせてその財産をし
っかり運用することが基本の仕事です。個人のお客さ
まに関しては、2015年から相続税が増税になった
こともあり、生前贈与も含めて相続関連のご相談が増
加していると感じています。

ここで簡単に自己紹介させていただきます。入社以
来、いくつかの業務を経験してまいりましたが、この
約20年はもっぱら新商品、新業務の開発に携わってき
ました。最近では、超高齢社会にかかわる商品の開発

これからの日本

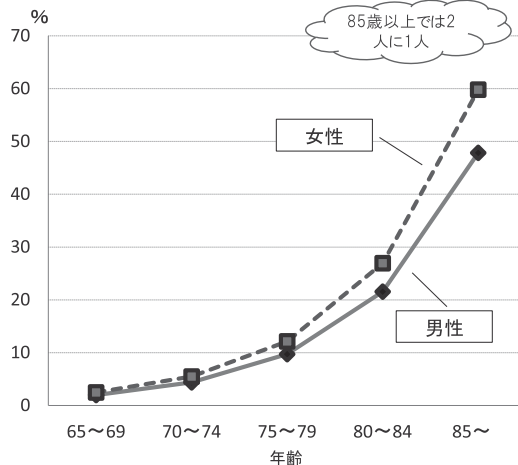
85歳以上人口推計



出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」から作成。

三菱UFJ信託銀行

年齢毎の認知症有病率



出所：研究代表者二宮利治「厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究総括研究報告書」から作成。

MUFG

図20

が重要なテーマでした。

図20の左のグラフは、85歳以上の人口の2065年までの50年間の予測です。85歳以上の人口は2015年には500万人弱でしたが、2040年には1000万人を超えると見込まれています。さらに100歳以上の方は今、7万人近くいらっしゃるようですが、今後、数十万人という水準になります。既に人生100年時代が来ているといっても過言ではありません。右のグラフは年齢ごとの認知症の方の割合を示したものです。認知症はどうしても年齢とともにかかりやすくなり、85歳以上になると、半分以

上の方が罹患するといわれています。65歳以上の認知症有病者数は、2015年で500万人強、2040年には800万人〜950万人に達すると推計されています。

資産管理の重要性

さらに認知症の前の段階といわれる軽度認知障害の方も多くいらっしゃいまして、判断能力が低下している方の総数は実際にはもっと多くなります。判断能力の低下は長寿化にともない、ご本人、ご家族も含めて非常に身近な問題になってきました。

人生100年時代です。認知症が一般的な病気になる中、今回のテーマであるライフプランについて考えてみますと、まず資産の管理に注意しないとということに気がつきます。図21に示しますように、認知症が進み行為能力が失われた場合には後見人を立てて財産を管理する制度がありますが、その前の段階には特別これといって決まった制度はありません。その時期の財産の管理には特に留意が必要です。

資産管理 人生100年への備え

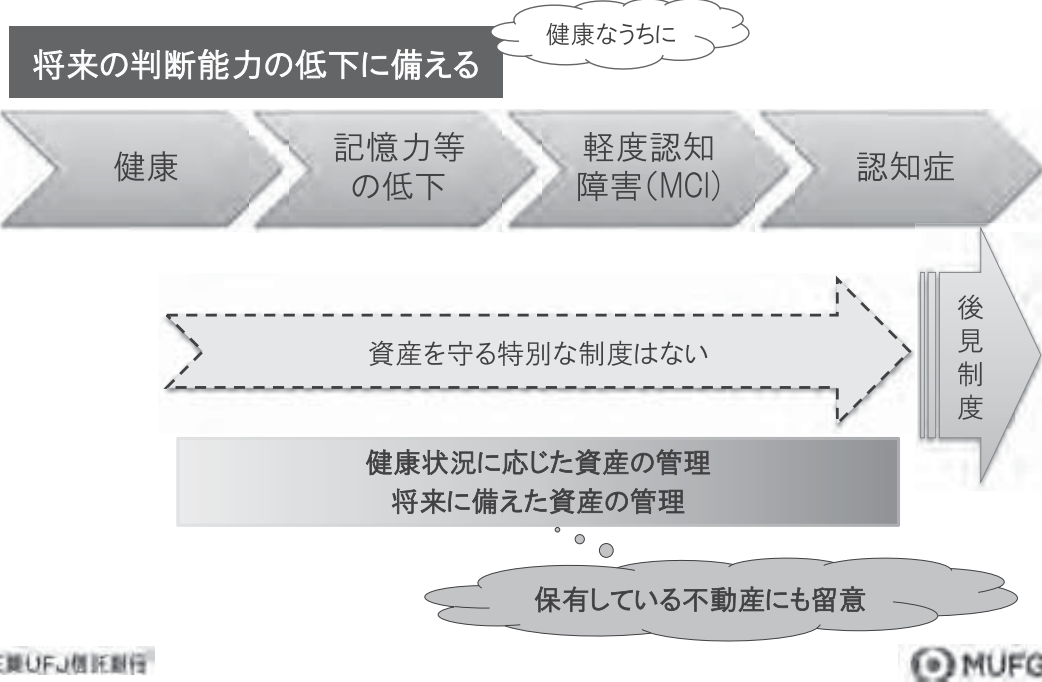


図21

残念ながら、老後のための蓄えを間違っ
て使ってしまう、悪い人にだまされてしま
うということも起こりがちです。判断能力
が衰えてからは対応方法が限られますの
で、元気なうちから準備しておくことが
大事です。

財産を失わないようにするためには、ご
親族の方が財産を管理することが1つの
方法だと思いますが、他にも方法があり
ます。例えば、「みらいのまもり」とい
う新商品は、将来の判断能力低下に備
えて使い道を限定し、解約制限がついた
資産を元気なうちに作っておこうとい
う金融商品です。簡単に言いますと、自
分のお金を

判断能力低下に備える金融商品(例)

解約制限付信託「みらいのまもり」

- 一定の目的にのみ支払いを行い、判断能力低下に備え、解約を制限する商品

契約者本人でさえ簡単には解約できない、
厳重に資金を守ることができる信託商品



- ① 原則解約不可
 - 委託者(契約者)だけでは中途解約不可
 - 将来、やむを得ず解約する場合は、その解約理由等を受益者代理人および受託者(信託銀行)が確認のうえ支払い
- ② 使いみちの限定
 - 「有料老人ホーム等施設の入居一時金」、「10万円以上の医療費(1件あたり)」以外の使用不可
 - 支払方法は老人ホーム・病院等への直接の振込に限定(現金での払出不可)
- ③ 専用の口座
 - 本商品専用の口座で管理するため、ほかの資金と分けて管理

三菱UFJ信託銀行

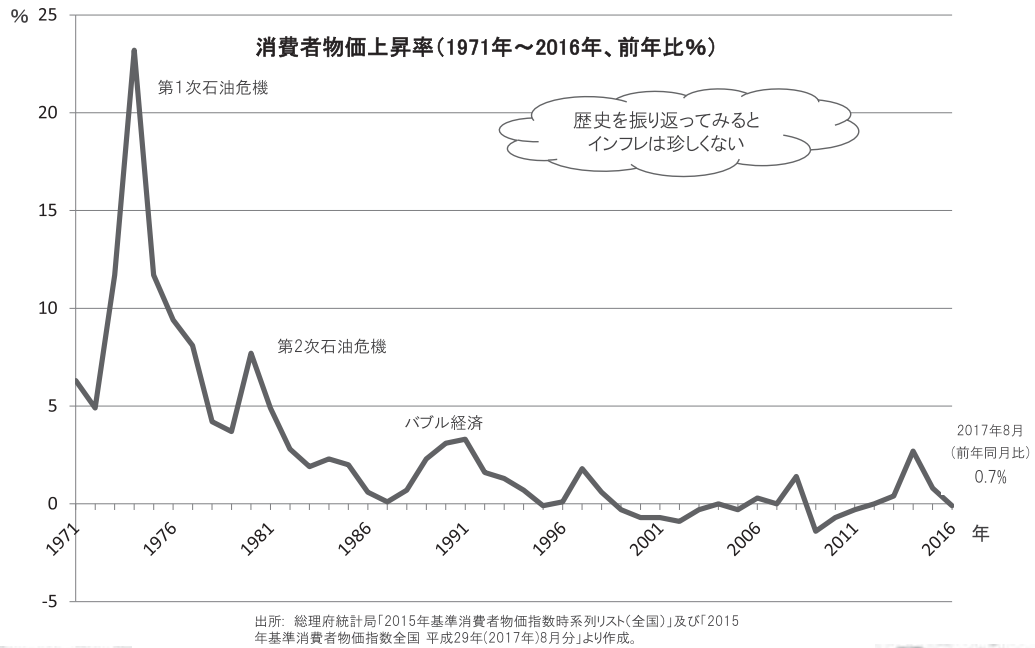
(注) 本商品は、三菱UFJ信託銀行が2016年6月30日より販売開始しています。
本資料は、個別の商品、サービスを勧誘することを目的としたものではありません。

MUFG

図22

1度預けると、自分だけでは解約できなくなるものです。原則、中途解約ができません。万が一、解約が必要になった際には、あらかじめ親族等の中から選んでいただいた受益者代理人という役割の人の同意を得ることが必要になります。さらに特別な点は、信託銀行の最終確認も受ける必要があることです。資金の引き出し事由は、老人ホームの入居一時金と高額医療費に限っています。全体としてがちり資金を守るということをやねらいにしています。商品の性格もあり、あまり宣伝はしていませんが、ご関心は非常に高いと感じています(図22)。

人生100年の間には経済環境も変わる ⇒ インフレも？



三菱UFJ信託銀行

MUFG

図23

資産運用の留意点

財産管理に続いて、運用を考えてみたいと思います。人生100年時代となりますと、非常に長い間、運用することになります。例えば、65歳で退職された方では、それから少なくとも30年というスパンで運用を考えていかなければいけません。

図23は少し長い期間ですけれども、1971年からの消費者物価上昇率を示したものです。最近、ずっとデフレが続いたのでインフレを忘れてがちですが、30年、40年といった時間軸では

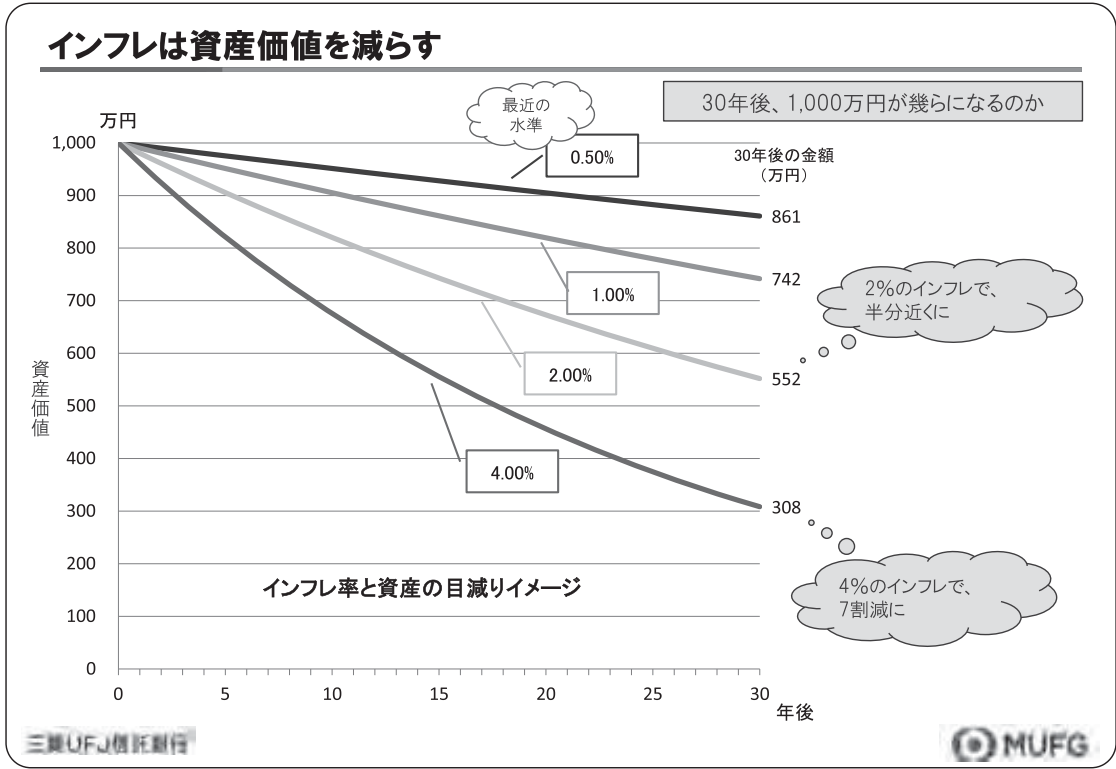


図24

インフレは十分にあり得ます。
 もし政府が目指す2%のインフレが続いた場合、1000万円を運用せずにそのまま持っていますと、財産の価値は30年後には約半分の550万円ほどになってしまいます。インフレ率が高ければ、もっと低くなるということです
 (図24)。

図25は財産の増え方というか、増やし方です。今の金利0.01%で預貯金に置いておきますと、一番下の線でほとんどX軸に重なってしまい、1000万円は30年たっても数万円しか増えません。先ほどのインフレ率と同じ2%で運用で

預貯金だけでは資産は増えない

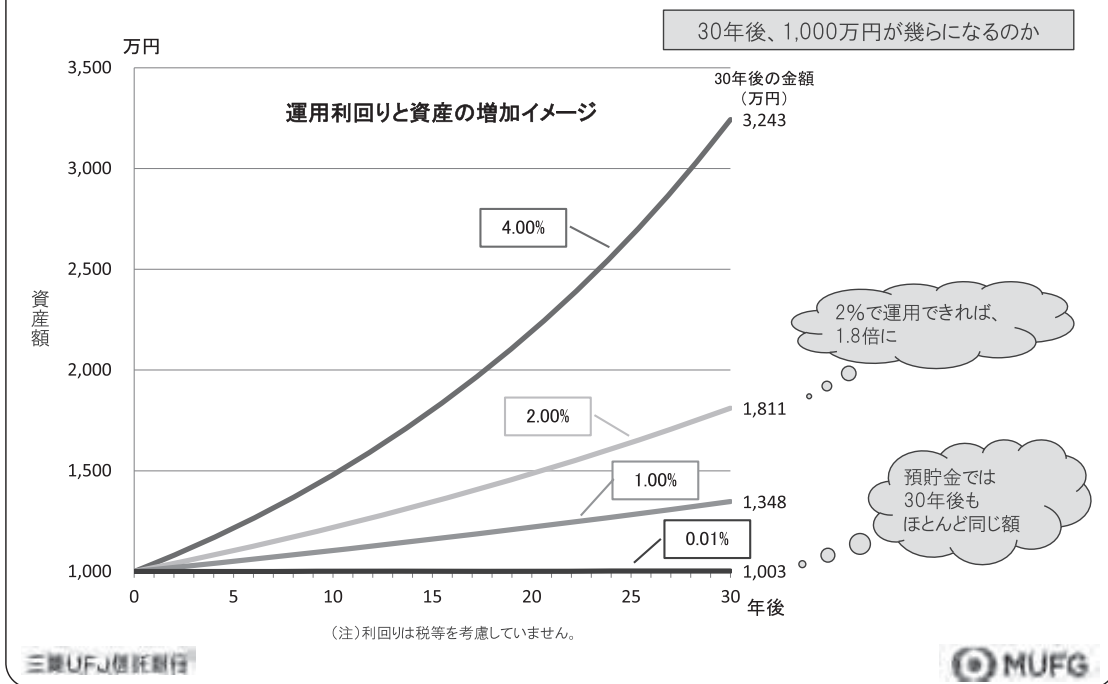


図25

きたら1800万円を超えていき、全く金額が異なります。財産を預貯金ばかりに置いておくと、インフレの際には財産が目減りするおそれがあるということです。

では、どんな運用をしたらよいのでしょうか。難しいのですが、長い間にはいろいろなことがあつて、株価も為替も動きます。昔に遡りますと、オイルショックやリーマンショックなどというものもあり、今後も経済危機があるかもしれません（図26）。

1980年以降の円ドルのレートの推移を示しますが、振り返ってみますとかなり大きく動

人生100年の間には…

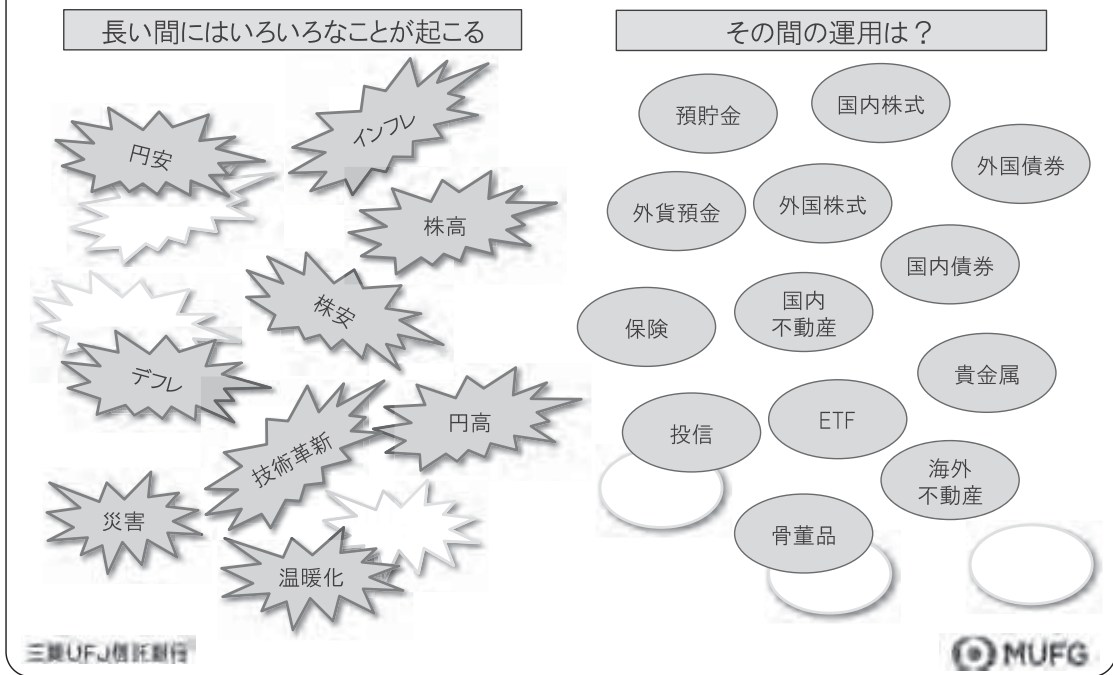


図26

為替も動く ⇒ 為替は外国株式、外国債券等の円建て価格にも影響

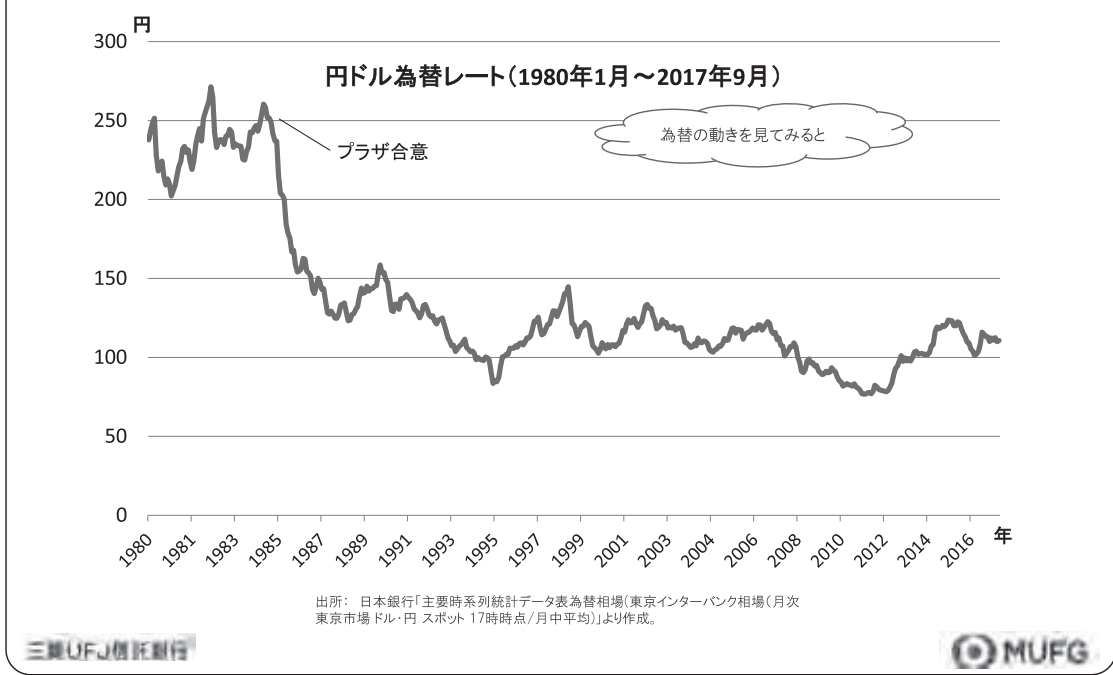


図27

投資商品により値動きは異なる ⇒ 一種類だけの投資はリスク

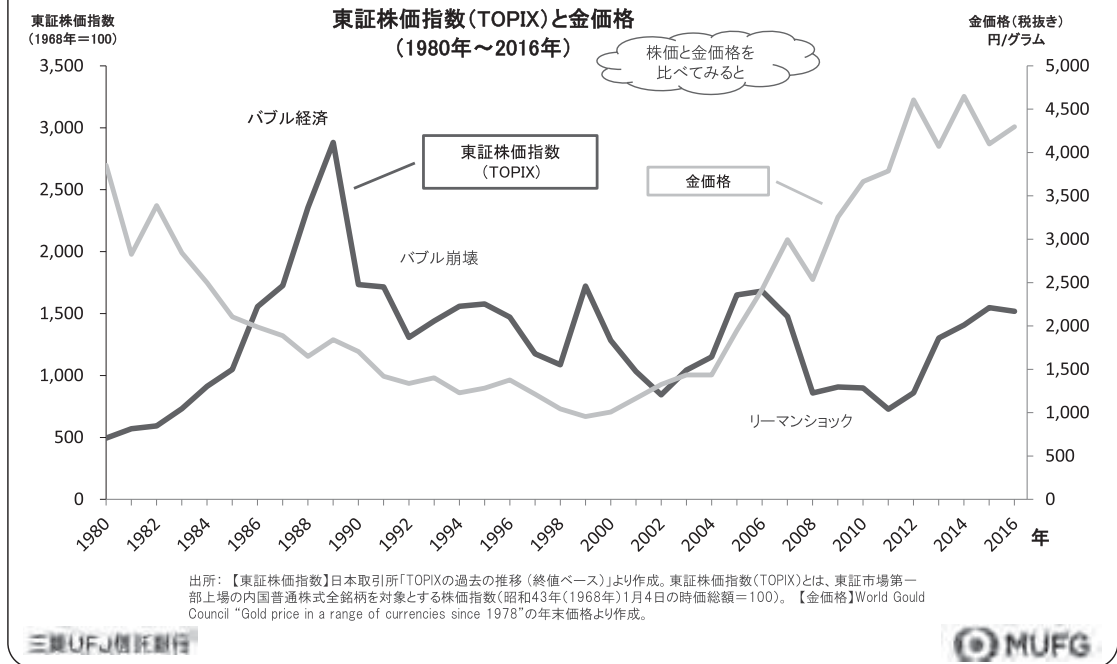


図28

いています（図27）。

図28は金と株価の推移で、太い線が東証の株価、細い線が金です。金と株価の推移は、全く違う動きをしており、逆方向に動いていることが多いのが特徴です。これらからわかることは、投資したものにより値動きは異なり、1つのものに投資すると結構リスクがあるということです。

そこで、いろいろなものを組み合わせて運用していくこと、いわゆる分散投資が重要になります。リスクとリターンが組み合わさることによって、比較的安定的な運用ができるようになります。

人生100年時代 資産の管理と運用のポイント

人生100年時代 30年先まで視野に資産の管理と運用を

資産の管理

- ① 高齢になったときのことも考慮
 - ② 不動産の管理も重要
- ※ご家族、ご親族の資産の管理も

資産の運用

- ① 目先でなく長期計画で
 - ② 「預貯金に置いたまま」はリスク
- ※ローン返済、収入とのバランスも

35年住宅ローンと同じように、
資産の管理と運用も
長期のスパンで

分散投資

預貯金のほか、国内外の株式・債券・不動産、
保険、貴金属など複数の資産を保有することにより、
資産全体のリスクとリターンのバランスを
良くする投資手法。

各資産の運用比率(ポートフォリオ)は、
状況に応じて見直しが必要。

三菱UFJ信託銀行

MUFG

図29

ります。分散投資は、少し前まではプロの世界の話でしたが、今は一般の方も簡単に分散投資ができます。市場の動きにリンクさせるインデックス運用というものがあり、それを利用したインデックス投信やETFを組み合わせれば、少ない額から分散投資ができます。

資産管理と運用のポイント

最後に、人生100年時代の資産の管理と運用のポイントを挙げてみました(図29)。

1点目、資産の管理では、高齢になり判断能力が低下してきたときのことを前もって考えて

おくことをお勧めします。特に不動産をお持ちの方はご留意いただければと思います。

2点目、資産の運用では、今後のインフレリスクも考えますと、預貯金に置いたままはリスクです。運用が大事です。ただ、その際には分散投資を強くお勧めします。

では、具体的にどうしたらよいのでしょうか。人生100年時代にはかかりつけのお医者様を選ぶように、財産の管理と運用の相談相手をあらかじめ決めておくことをお勧めします。それは信託銀行や保険会社でもよろしいですし、ファイナンシャル・プランナーなどの専門家でもいいと思います。気に入った方を最初にお選びいただければと思います。財産で何か気になったとき、前もって相談できる先がありますと、きっと人生100年時代の安心につながると思います。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

山本 明治安田生命の山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

山本 英生 (やまもと ひでお)

【現職】 明治安田生命保険相互会社
営業企画部 上席 FP コンサルタント

1983年、明治生命保険(当時)入社。営業所長などを経て1994年よりFPとして社内外の研修・セミナーなどを実施。営業教育部長を経て2016年より現職。

厚生労働省FP技能検定検定委員、NPO 法人日本FP協会理事、金融財政事情研究会FP技能士センター運営委員。

著作には、『生命保険税務Q&A』(税務研究会)〈共著〉、『相続税法改正でこんなに変わった「そうぞく」の常識』(宝島社)、『そうぞく対策と生命保険活用術』(きんざい)など。



100歳までの長い期間にはいろいろなリスクを
考えておくことが必要だと思います。この長期間を
考慮したリスク対策ということで、生命保険の話を
少しさせていただきたいと思います。

ご存じのとおり生命保険は人の生死や、健康状態
等に応じて保険金・給付金が支払われるものです。
生命保険をしっかりと準備することで、100歳ま
での人生のリスクに対しての準備がイメージしやす
くなります。

人生のリスクは大きく分けて4つといわれています。
す。長生きのリスク、介護のリスク、病気やケガの
リスク、万一(死亡)のリスクです。

公的保障も、老齢年金、介護保険、健康保険、遺族年金などが準備されており、これらでそれぞれのリスクに対して100%保障されていれば、個人としてのリスク対策は必要ないかもしれません。

しかし、現在の日本では、この公的保障だけでは不足することがあることはご存じのとおりです。そのため、老後保障、介護保障、医療保障、死亡保障のそれぞれに対して保険会社が販売している生命保険を活用することで、ご自身やご家族のリスクをよりカバーすることができ、安心感を持った人生を送れると考えています。

人生の“4つのリスク”

図30は、生命保険文化センターの「生活保障に関する調査」の結果です。各リスクに対して私的保障を準備されている人の割合を示しています。上からみていくと長生きのリスクの準備率は44%ですが、介護のリスクでは約27%しか準備ができていません。病気やケ

人生の“4つのリスク”

人生のリスクと公的保障・私的保障



人生のリスク	公的保障	私的保障	準備率
			長生きのリスク
介護のリスク	介護保険	介護保障	27.0%
病気・ケガのリスク	健康保険	医療保障	72.9%
万一のリスク	遺族年金	死亡保障	63.9%



生命保険文化センター 平成28年度「生活保障に関する調査」(平成28年12月発行)

MEIJIYASUDA

図30

ガのリスクに対する準備率が一番高く73%、次いで万一（死亡）のリスクの64%です。

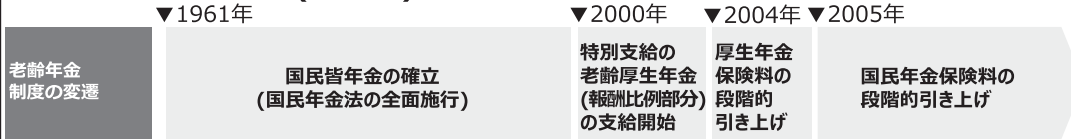
皆さま方は何らかの形でどちらかの生命保険会社等の保険に加入されていると思います。まずは、ご自身の加入されている保険をこの4つに区分し、どのリスクに対して準備できているのかをご確認いただくことが大切だと思います。

長生きのリスク

人生100年ということでもまず思い浮かぶのは、長生きのリスクです。図31の上段に公的保障の老齢年金の制度の変遷を簡単に載せさせて

長生きのリスク—老後保障

●老齢年金制度の改正 (イメージ)



●個人年金保険料控除の改正 (イメージ)



●個人年金保険 (イメージ)

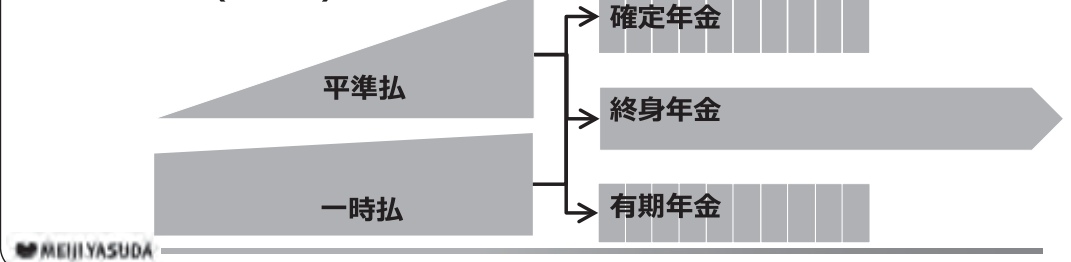


図31

いただきました。年金の受給開始年齢も徐々に高年齢になり、一方で掛金の負担は増えている現状は、皆さまご存じのとおりです。

私的保障で老後準備を進めることを後押しする制度として、個人年金保険料控除というものがあります。1984年に所得控除として最大5000円で創設され、1990年に急に5万円に上がりました。この段階では、1年間にお払い込みいただいた個人年金保険料が10万円以上で5万円の所得控除が受けられるというものでした。その後、2012年に介護・医療保険料控除が創設されたことともない、個人年金

長生きのリスク—老後保障

	生保標準生命表(死亡保険用)					
	2018		2007		1996	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
100歳人数	1283.7人	7586.6人	513.54人	4116.7人	246.72人	1955人
何人に1人	77.9人	13.2人	194.7人	24.3人	405.3人	51.2人

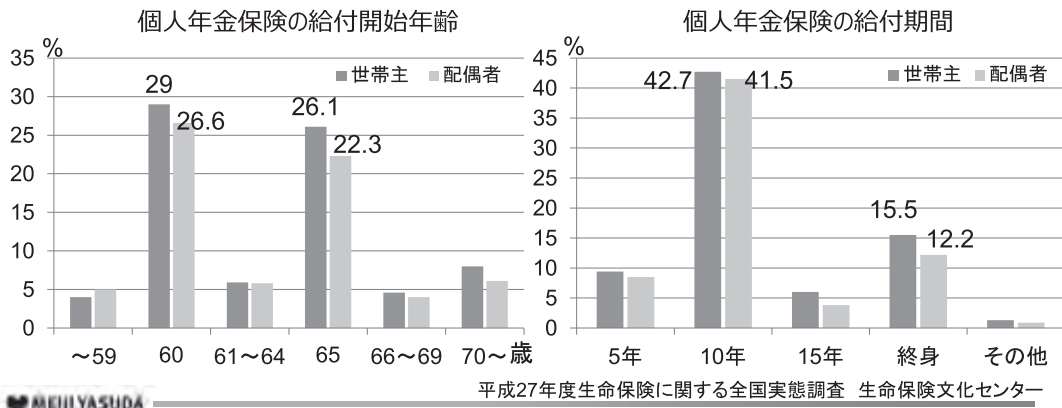


図32

保険料控除は5万円から4万円に引き下げられています。

個人年金保険は、シンプルに考えると、保険料を一時払い、平準払い（年払い、月払い）で払っていたら、所定の年齢になると確定年金、終身年金、有期年金などで受け取るという商品です。

図32の左下のグラフは、個人年金保険加入にあたって年金給付の開始年齢として何歳を選択しているかという調査結果です。年金のスタートは60歳と65歳で過半数を占めています。右下のグラフは、年金の給付期間の選択で、受給期

間は10年間を選んだ方が約半数で、終身の受給を選択した方は世帯主で15%強しかいませんでした。私自身が、個人年金をお客さまにお勧めした際も、なぜか皆さま終身を選びません。お客さまには「加入する時点では終身を選んでいても、将来受け取り方法を変えることができ、10年、15年の確定年金に変更可能です」とご説明しても、「終身は早く死んだら損でしょ」とおっしゃる方もいらっしゃいます。やはり年金を貯蓄と同様に考え、支払った保険料を下回る受け取りでは満足できない方が非常に多いという傾向が表れていると思います。しかし、年金の開始年齢と受取期間を考えると、60歳からスタートすると70歳、75歳で終わってしまう方が多くいらっしゃいます。

図32の上段の表は、生保標準生命表と申しまして、保険会社が保険をお預かりしている方々のデータをもとにアクチュアリー会が作成した経験生命表の抜粋です。生保標準生命表は1996年にスタートし、2007年、そして2018年と11年ごとに改定を行っています。1996年には100歳を超える人数が男性は405人に1人、女性は51人に1

人でしたが、22年たった2018年では、男性が78人に1人、女性は13人に1人です。女性性は小学校の1クラスが25人とするとそのうち約2人は100歳を超えろという結果です。その意味では、皆さまが100歳を意識することが当たり前の時代がもう近いといえると思います。

まず、個人年金にご加入されている方は、ご自分の個人年金は何歳から何歳まで受け取れる契約なのかをご確認いただきたいと思ひます。

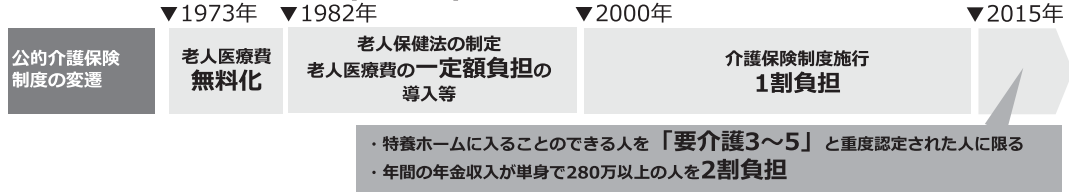
介護のリスク

長生きする中では介護のリスクも忘れることはできません。

2012年に介護・医療保険料の生命保険料控除が始まり、最大4万円が控除されるようになりました。少ないようですが税金はお得になりますので、こういった面も考慮して私的保険で介護に對しての準備をお考えいただけたらと思ひます。図33の「介護保険（イ

介護のリスクー介護保障

● 公的介護保険制度の改正 (イメージ)



● 介護・医療保険料控除の改正 (イメージ)



● 介護保険 (イメージ)



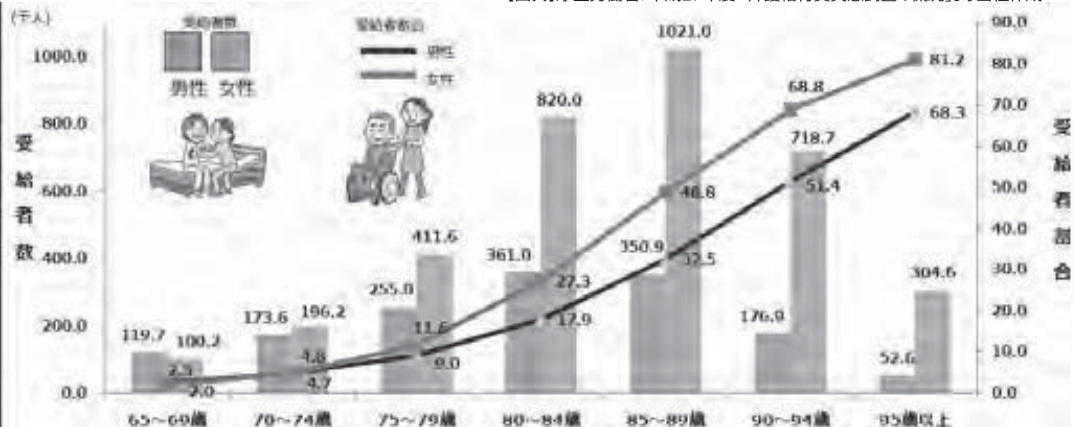
MEIJIASUDA

図33

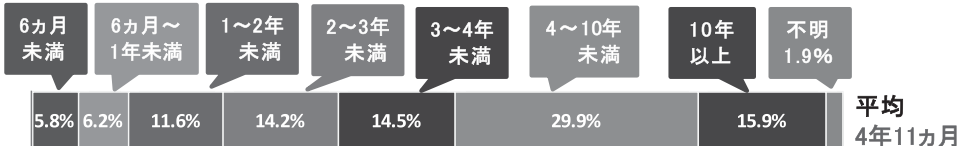
介護のリスクー介護保障

要介護者の受給者の数と割合

【出典】厚生労働省「平成27年度 介護給付費実態調査の概況」より当社作成



介護に要した期間



MEIJIASUDA

【出典】生命保険文化センター「平成27年度 生命保険に関する全国実態調査」

図34

メージ」を見ていただきますと、2000年くらいまでの介護保険は、保険会社独自の規定によって給付金を支払うものでしたが、今は、公的介護保険の要介護認定に連動するものが増えてきています。公的保障の自己負担分を保険で準備しておけるものになります。

図34の上段は、公的介護保険を受給している方の年代別のグラフです。女性の方が介護保険の受給者、受給割合が高いということがわかります。また下段が介護保険を受給している期間ですが、平均して約5年、10年以上の長期間という方も15%以上いらっしゃいます。

図35は東京大学の秋山弘子先生の「長寿時代の科学と社会の構想」(『科学』2010年1月号)からの掲載です。全国の60歳以上の高齢者を追跡調査した結果で、左が男性、右が女性です。亡くなるまで健康維持できている方は、男性は約1割です。一方、右側の女性のグラフにはそれがありません。1%以下ということでグラフの表示ができませんでした。つまり女性は男性よりも介護に対しての意識が必要だということです。

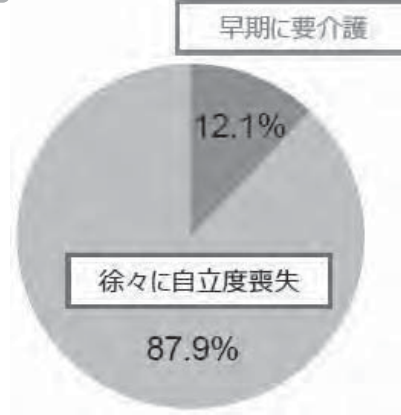
介護のリスク—介護保障

全国高齢者(60歳以上) 20年の追跡調査

男性



女性



●自立度の変化パターン

- ・基本的日常生活動作…風呂に入る、短い距離を歩く、階段を2~3段上がる
- ・手段的日常生活動作…日用品の買い物をする、電話をかける、バスや電車に乗って出かける

【出典】秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想『科学』岩波新書2010

MEIJIYASUDA

図35

私が介護保険をご夫婦にお勧めしますと、奥さまはご自身の介護の負担の軽減を意識してなのか、ご主人の介護のリスクについてはとても心配されますが、自分が要介護になることへのリスクについては案外気にされていないのです。今日お越しの皆さまには、ぜひご夫婦ともに介護の準備を意識していただきたいと思います。

病気・ケガのリスク

図36は医療保障の資料です。医療費の自己負担が増えていく中で、先ほどお話ししましたように介護・医療の保険料の控除もできました。

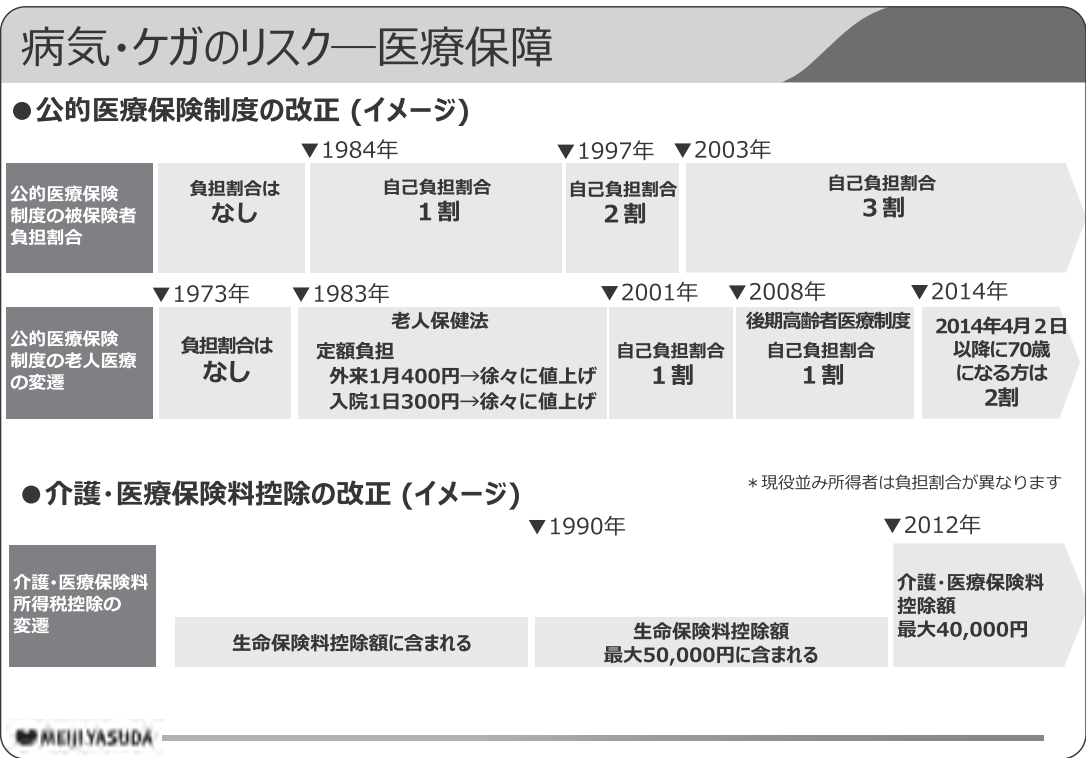


図36

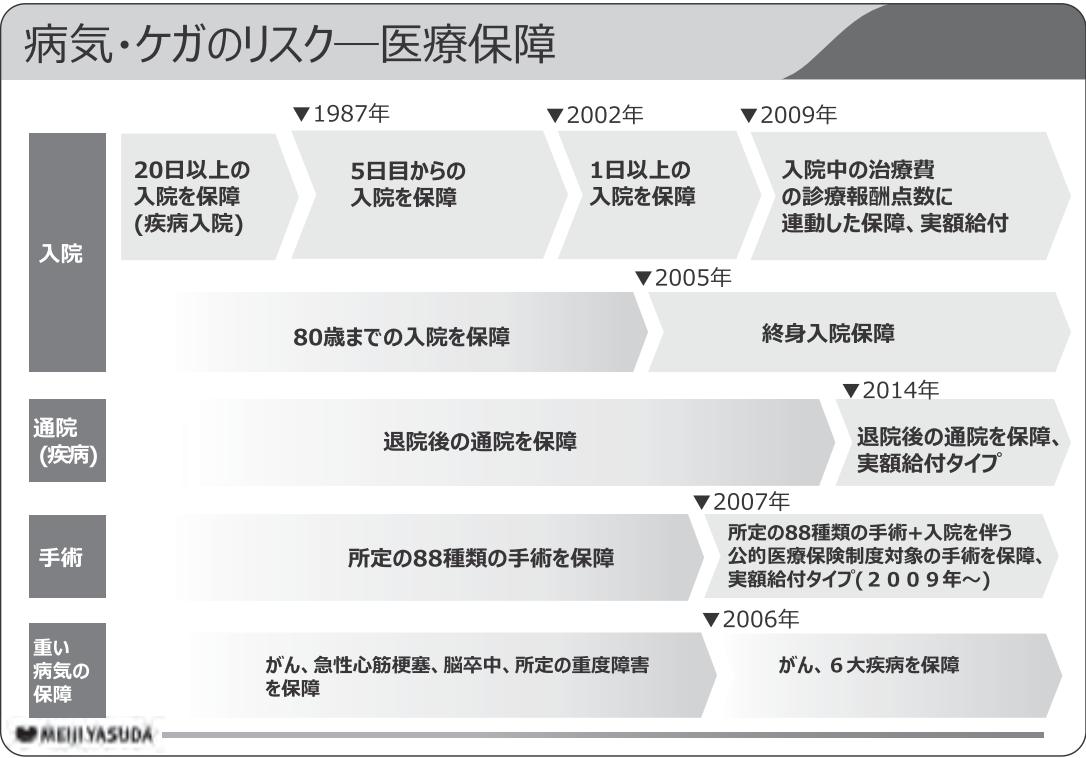
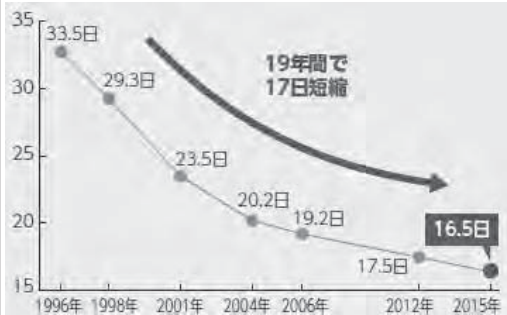


図37

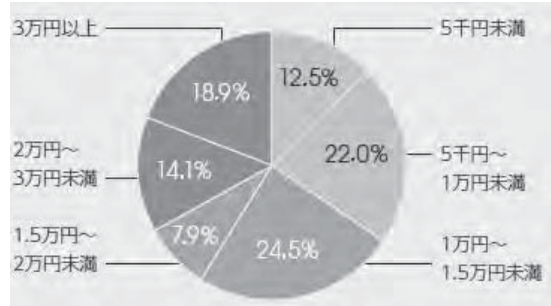
病気・ケガのリスク—医療保障

退院患者の平均在院日数(一般病棟)



【出典】厚生労働省「平成27年 医療施設（動態）調査・病院報告」に基づき当社作成

入院1日あたりの自己負担額



【出典】生命保険文化センター「生活保障に関する調査（平成28年度）」に基づき当社作成

・治療費・食事代・差額ベッド代などを含み高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額です
 ・公的医療保険の給付には、たとえば医療費の自己負担が一定の金額（自己負担限度額）を越えた場合、その超えた部分を払い戻す高額療養費制度などがあり、実際の自己負担額はケースにより異なります

MEIJIYASUDA

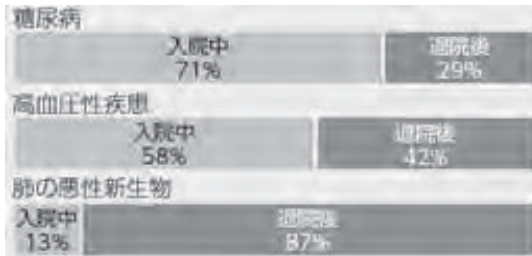
図38

図37は、弊社の医療保険の変遷です。医療保険に加入されている方は多いと思いますが、いづご加入されたかを、ぜひ一度チェックしていただきたいと思います。2004年以前は、80歳で保障が終わってしまうものがほとんどでした。これでは人生100年時代には、リスクのカバーが途中で終わってしまいます。今は終身での保障になっています。また保障内容についても公的保障と連動したものなどいろいろなタイプが販売されています。

図38でご確認いただけますとおり、入院した場合の平均在院日数は短くなり、入院の1日あ

病気・ケガのリスク—医療保障

- 入院中と退院後の通院時の療養に係る診療報酬点数の割合



一生のうちのがんと診断される確率は
およそ2人に1人とされています

※通院時の療養に係る診療報酬点数には、薬局にて薬を処方された場合の調剤報酬点数も含まれます

※個人により症状・治療内容が異なる等の理由から、実際の療養に係る診療報酬点数は異なります。

【出典】診療報酬点数のデータ、実際の症例に基づき、糖尿病および高血圧性疾患については、(福)三井記念病院(退院月翌月～6ヵ月後の通院医療費、調剤医療費合計の平均値の割合を記載)肺がんについては、(公財)がん研有明病院入院医事課(退院月翌月～2.4ヵ月後の通院医療費、調剤医療費合計の平均値の割合を記載)

MEIJIYASUDA

図39

たりの自己負担額は高くなっています。

同様に、図39のように、病気の種類によって入院中だけでなく、退院後の保障も準備が必要な場合があります。

弊社でも90歳までご加入いただける医療保険も販売しております、ご自身の医療保険の見直しをしておくことが100歳までのライフプランの準備として必要だと思います。

万一（死亡）のリスク

最後に死亡保障のご説明です。「自分が死んだ後なんてどうでもいいよ」という方もいらっしゃる

死亡のリスク—死亡保障

年代別生存者数の推移および生命表からみた生存数（平成27年度）

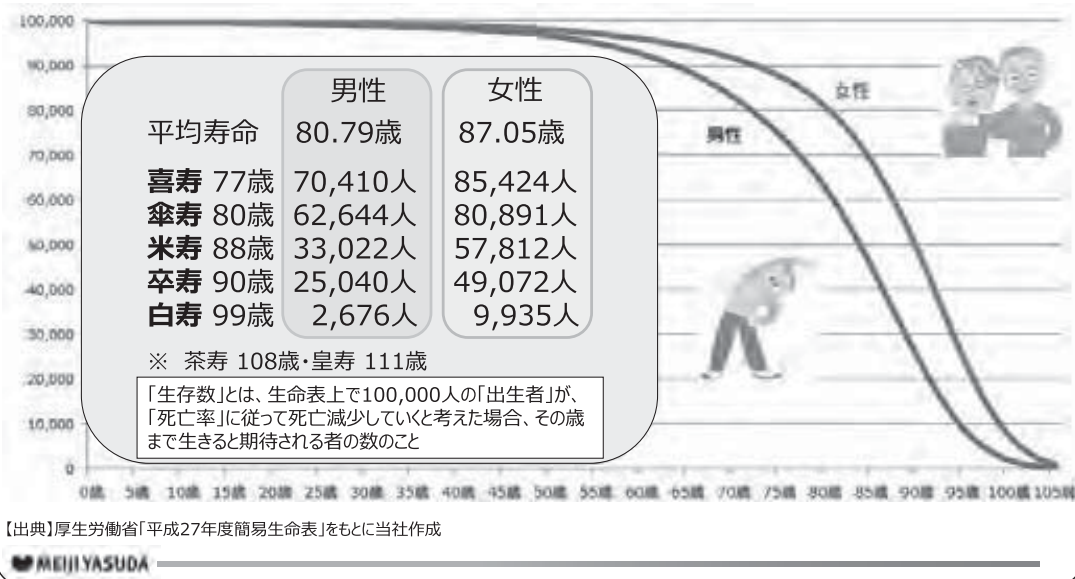


図40

しゃいますが、相続や遺産整理の問題など、死亡後のご準備も意識して保険をご検討いただくことは必要だと思います。

図40は、出生数10万人あたり何人の方がそれぞれの年齢を迎えるかという統計です。10万人中、白寿のお祝いを迎える女性は9935人です。女性の約10人に1人が白寿を迎える時代なのです。

明治安田生命では生命保険にご加入の方々に、卒寿や白寿、さらには茶寿や皇寿には必ず面談してお祝いをお届けするサービスを実施しています。と申しますのは、せっかく保険に入っ

おられても、認知症などさまざまな理由で、受け取ることができる給付金や保険金をご請求いただけていないという方もいらっしゃるからです。そういう方をお探しし、お日にかかって保険の内容などの確認をさせていただいています。

ちなみに、茶寿は108歳のお祝いで、「草かんむり」の部分が「十」「十」で20、下の「八十八」を加えて108、皇寿は111歳のお祝いで、「白」が「百」引く「一」で99、「王」を「十」と「二」に分解した12を足して111になります。こうしたご年齢になりますと、なかなかご自身ではお手続きが難しい方も増えてまいります。

その意味では、末長くサービスしてもらえような保険、そして保険会社を選んでいただくことも必要だと思えます。

ご説明した4つのリスクにプラスして、ご自身の資産を運用して備えておくことも大事ですが、保険をしっかりとご準備されれば、リスクに対しては100歳を超えても安心して過ごしていただけたらと思います。最初にお話ししましたように、ぜひご自身のリスク対策

をもう一度確認し見直していただけたらありがたいと思います。どうもご清聴、ありがとうございました。

椎名 キリン株式会社人事総務部の椎名と申します。今日はキリン社のキャリア・ライフプラン形成についての考え方、支援制度についてお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずはキリン社の人事の基本理念をお話いたします。

キリングroupでは、従業員と会社はイコールパートナーであるという考えのもと、高い成長力を持って本気で仕事に取り組む従業員に対してはその努力と個性を尊重し、さらなるチャレンジや成長の機会を提供していきたいと考えています。

この考え方を人材育成やキャリア形成の取り組みに入れ、従業員にも自らキャリアを考え、自分で自分のキャリアを作っていくのだという気持ちを持つことを求めています。会

椎名 達也（しいな たつや）

【現職】キリン株式会社 人事総務部
人事担当 兼 メルシャン株式
会社 人事総務部

2006年キリンビール株式会社入社、
キリンビール北海道千歳工場総務担
当配属。

2009年給与計算部門への出向を
経て、2015年10月から現職。キリン株
式会社・キリンビール株式会社の退
職年金制度を担当。



社を取り巻く環境が変化し続けていく中、会社としては新
たな価値を創造し続けていく必要があります。そのために
は一人ひとりがこうした意識を持つこと、また並行して組
織能力を高めていくことが必要だと考えています。

続いて、キリン社の多様性の推進についてもお話しさせ
ていただきます。先ほど新たな価値の創造と申しましたが、
このために、キリングループでは人と組織風土の変革を
テーマにいくつかの取り組みをしています。

多様性の推進もその1つで、性別、障がいの有無、国籍
等に関係なく、新たな価値創造に向け、多様な人材がいき
いきと働いて、一人ひとりが成長力を持って、仕事を通じ
て成長を実現できる組織風土づくりに取り組んでいます。

多様性の推進

価値創造に向け、多様な人材が活き活きと働き、仕事を通じて成長を実現できる組織風土・場づくりに取り組む

新たな価値創造のために、多様性に富み、そのパワーが最大限に発揮される組織風土をつくることが重要



KIRIN

© 2017 Kirin Company, Limited

図41

年齢もしかりで、年齢に関係なく、一人ひとりが自分の持ち場、役割で活躍しているというのがありたい姿です（図41）。

人事としての基本的な考え方と、今現在行っているありたい姿に向けた具体的な取り組みに関し、会社生活の終盤を迎える50歳以降の社員について、キャリアとライフプランの両面でいくつか支援制度を設けています。ただし、申しあげたようにキャリアを考えて人生設計をするのは個人であり、そうした個人を支援することが目的の制度です。

社員のキャリア・ライフプラン形成を支援する仕組み①

キャリア形成支援

●50歳キャリアデザインセミナー

50歳になる社員を対象にこれまでの業務経験を振り返るとともに、これからの自己を内省し、今一度自身のキャリアを考える機会を設ける。(全員必須)

※30歳・40歳でも開催

●再雇用制度(60歳～)の案内

55歳から59歳になる社員向けに再雇用制度の概要を案内。長い間、会社に貢献し、様々な能力や技能を身につけてきた社員の第二の職業生活の選択肢の一つとして再雇用制度を位置付ける。

●再就職支援(社外転進支援)

キャリアは早めに考え、自ら選択することが重要であるという考えにたち、その選択を会社は支援することを目的に、50歳以降に退職する場合は、再就職支援としてキャリアカウンセリング、再就職のためのノウハウ、求人紹介を行う。(任意)

KIRIN

© 2017 Kirin Company, Limited

図42

企業のキャリア形成支援例

最初にキャリア形成支援の制度についてご説明させていただきまます。キャリア形成支援については、従来から3つの施策を行っています(図42)。

1つ目は50歳でのキャリアデザインセミナーです。50歳になる社員を対象に、これまでの業務の経験を振り返るとともに内省してもらい、いま一度自身のキャリアを考える機会を設けています。同様の研修を30歳、40歳になるタイミングでも社員全員について行っています。

2つ目が再雇用制度です。再雇用制度については55歳から59歳になる社員向けに、再雇用制度の概要を案内しています。長い間、会社に貢献し、さまざまな能力や技術、技能を身につけてきた社員の第2の職業生活の選択肢の1つとして、再雇用制度を位置づけています。

3つ目が再就職支援(社外転進支援)です。キャリアは早めに考えて、自ら選択して切り開いていくことが大事であると先ほども申し上げましたが、そうした考え方に立ち、個人の選択をきちんと支援し、フォローすることを目的に、50歳以降に退職する場合にはキャリアのカウンセリング、再就職のためのノウハウ教育、求人紹介を行ったりしています。こうした施策を行うことで、主体的なキャリアデザインができるように支援しています。

企業のライフプランの設計支援例

続いて、ライフプランの設計支援です。こちらについても3つ紹介させていただきます

社員のキャリア・ライフプラン形成を支援する仕組み②

ライフプラン設計支援

●シニアライフセミナー

50歳～55歳までの社員（配偶者含む）を対象に、「健康」、「経済」、「生きがい」など生活設計に必要なテーマについて、専門の講師からの情報提供を受けながら、退職後を含めたこれからのライフプランを考える機会を設ける。（任意）

●ファイナンシャル・プランナー相談サービス利用補助

ファイナンシャル・プランナーへの相談1回につき、4,000円の補助を受けられる（年間の補助上限は4回）。

●プチライフプランセミナー、グループ会社のキリンエコー社『知っ得セミナー』の実施

ゆとりある人生を送るために「いつ」までに「どれくらいのお金」を「どんな方法」で備えたいのか、について、資産形成を考える手順や運用の基本的な考え方を伝えるセミナーの実施。

KIRIN

© 2017 Kirin Company, Limited

図43

（図43）。

1つ目はセミナーという形で、シニアライフセミナーを実施しています。これは夫婦参加も可能としており、セミナーの最後のセッションに、退職後に受け取る年金などを加味して家計のキャッシュフローを作成する時間を設けています。セミナー後のアンケートでは多くのご夫婦から、「生涯年収とローン返済・養育費等の家計のプラス・マイナスが可視化され今後の家庭設計に役立った」等の声が必ずあり、現実には直面する機会として一定の反響を感じています。こうした現実的側面からも自身のキャリアを考

え直すきっかけになっていると思います。

2つ目はファイナンシャル・プランナー相談サービスです。FPに相談する場合、1回あたり4000円、相談料の補助を受けられる制度を設けています。

3つ目はいくつかの個人向けのセミナーです。一つは財産形成や資産形成という観点でアドバイスをする人事のセミナー、もう一つはキリンググループの保険代理店、キリンエコー社が行うセミナーです。積極的に保険の見直しや、iDeCo、公的年金制度、NISAなど、多岐にわたる内容でセミナーを行っています。

以上が、キリン社のキャリアとライフプランの支援制度です。ありがとうございました。

森 パネリストの皆さんから豊富な情報をいただきましたが、ダイヤ財団でも資料を用意していますので、ご紹介したいと思います。